



EY新日本有限責任監査法人
理事長

片倉 正美

理事長メッセージ

社会の期待の先にある監査の未来に向けて

EY新日本では、「Building a better working world～グローバルな経済社会の円滑な発展に貢献する監査法人」というパーパス(存在意義)を掲げています。これはEYが世界共通で掲げる「Building a better working world～より良い社会の構築を目指して」を基にしたEY新日本のパーパスであり、すべての社員職員がつねに意識しながら行動しています。私たちはプロフェッショナルとしてクライアントのビジネスを深く理解し、職業的懐疑心を持ってリスクに対応した深度ある監査を一貫して実践し、資本市場のゲートキーパーとして経済社会の発展に貢献してまいります。

高品質な監査を継続して提供するため、さらには社会の期待の先にある監査の未来を実現するために、EY新日本はいま、企業におけるサステナビリティ(持続可能性)対応への支援と、監査へのテクノロジー活用に関する取組みに注力しております。サステナビリティはいまや経営アジェンダです。私たちは企業のサステナビリティ情報開示支援やその保証業務の提供を通じ、ステークホルダーの間でクライアントの適正な企業価値に対する理解が進むことを後押ししたいと考えております。デジタルに関する取組みでは、最先端のテクノロジーを活用することによって監査品質のさらなる向上を目指します。その中軸的な役割を果たすのがリアルタイム監査であり、2023年3月に本格運用を始めました。AIを組み込んだEY財務分析ツールとクライアントのITシステムとを接続し、自動的にリアルタイムでデータを連携して会計仕訳上の異常を検知するというものです。

EY新日本はこれまでも、これからも、監査の品質を何よりも重視する組織風土の醸成に力を注ぎます。その上で一人ひとりが高い倫理観と使命感を持ちながら会計・監査に関する専門的な知識を深め、自律的に行動することで、真のプロフェッショナル集団として成長できるようさらなる精進に努めてまいります。また、EYのグローバルネットワークを生かし、グローバル人材の育成を引き続き推進する一方で、2023年3月に改訂されたいわゆる監査法人のガバナンス・コードに対応し、EY新日本とEYのグローバルネットワークとの関係、その意義等に関して透明性ある開示の充実を図ってまいります。

私たちはつねに一歩先の未来を見据え、高品質な監査を通じて資本市場に信頼を付与するとともに、その使命を背負う監査法人だからこそイノベティブであり続けたい。この監査品質に関する報告書を通じ、EY新日本の目指す姿と取組みをより多くの方々にご理解いただけましたら幸いです。